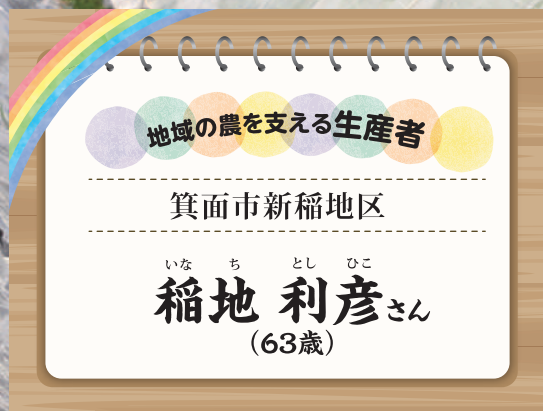
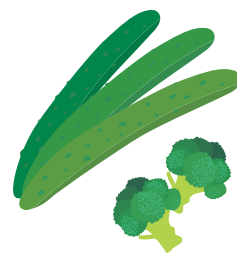




お客様の喜びが

私の喜びです



Q 始めたきっかけについてお聞かせください。

A 我が家は代々農家を営んでおり、私も自然と農業に親しんで育ちました。高校時代、父が体調を崩したことをきっかけに、農業を手伝い始めました。卒業後はサラリーマンとして働き、休日は両親の手伝いをしていました。その後、法人を立ち上げて事業に取り組み、法人を閉じた後、本格的に農業に取り組みようになりました。それが約2年前で、ほく彩館に出荷を始めたのもその頃です。先輩方に出荷の方法など様々なことを教わりながら、現在は主に私が農作業を行い、妻は梱包作業などを手伝ってくれています。

Q 生産のこだわりについて

A まずは自分の好きな、美味しいと思える農産物を作ることを中心掛けています。お客様に心からオススメできるもの、それが大切だと思います。また土づくりに使う牛ふんを兵庫県の牧場まで仕入れに行くなど、化学肥

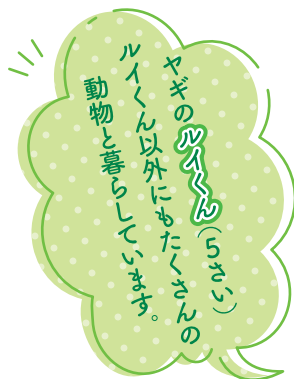
料を極力使用しないように努めています。他にも生育不良に備えて予備の苗を準備していることもこだわりですね。高温の時期などには思いがけず収穫できないことがあります。栽培のサイクルを保ち、安定して供給できるようにしています。

Q 大変だったこと・嬉しかったことはありますか。

A 大変なことは、天候の影響を受けることです。新稲地区は風通しの良い傾斜地であり、特に山の近くでは風がとても強く吹きます。強風でミカンの実は落ち、ブロッコリーが倒れることもありました。比較的風が弱い場所を見極めて栽培することが大切であることを痛感しています。嬉しかったことは、お客様に美味しいと喜んでいただけることです。畑の近くで無人販売をしていた頃、お客様に「ほく彩館にも出荷していますよ」と声をかけたことがあります。特に自分の名前も告げなかったのですが、後日ばったりお会いした時

主な栽培品目

さやいんげん・ズッキーニ・
トウモロコシ・
きゅうり・ブロッコリー



にお客様から「この生産者さん知っていますか？」と生産者の名前の付いたバーコードを見せていただきました。それがなんと、稲地利彦。だつたんです。「知っているも何も私ですよ！」と思わず言ってしまった。農業をしてよかったなと思った瞬間でした。



Q これからの目標や夢をお聞かせください。

A 柑橘類など新しい農産物の栽培に挑戦していきたいです。これからは様々な農産物を出荷できるよう頑張りますので、お客様にはおいしく食べてもらえれば嬉しいです。